

令和4年度生活支援体制整備事業の
取組み状況について

〔公開資料〕

令和5年度 第2回大阪市地域包括支援センター運営協議会

令和5年10月2日

大阪市福祉局 高齢者施策部地域包括ケア推進課

1 生活支援体制整備事業

- ・ 高齢化の進展に伴い、ひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加する中で、医療や介護サービス以外にも在宅生活を継続するための日常的な生活支援を必要とする方も増加しており、**行政サービスのみならず**、民間企業、NPO、ボランティア、社会福祉法人、協同組合等の多様な事業主体による重層的な支援体制を構築することが必要。
- ・ このため、介護保険法に基づき地域資源の把握・ネットワーク化や地域資源・サービス開発等のコーディネート機能を担う「**生活支援コーディネーター**」を配置し、多様な事業主体が参画する「**協議体**」を設置することにより、情報共有と連携強化を進めながら**住民主体の通いの場や買い物支援等の生活支援・介護予防サービスの充実及び高齢者の社会参加を進める**。
- ・ 同時に、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するような社会参加を進め、生きがいや介護予防につなげる仕組みも必要。

○ 生活支援コーディネーターの配置

- ・ 平成27年度に3区で行政区を活動圏域とする第1層生活支援コーディネーター（以下「第1層SC」という。）を配置しモデル実施。
- ・ 平成28年度に5区追加し、計8区で先行実施。
- ・ 平成29年10月から24区すべてに第1層コーディネーターを配置し全区展開。
- ・ 令和3年4月から日常生活圏域（66包括圏域）に、第2層生活支援コーディネーター（以下「第2層SC」という。）を配置。

○ 生活支援コーディネーターの主な役割

（１）生活支援・介護予防サービスの充実

民間企業、NPO、ボランティア等の多様な事業主体による重層的な支援体制の構築をめざし、次のような取組みにより、住民主体の通いの場や買い物支援等の生活支援・介護予防サービス立ち上げにかかる支援等を行う。

地域資源の把握等



地域課題の分析



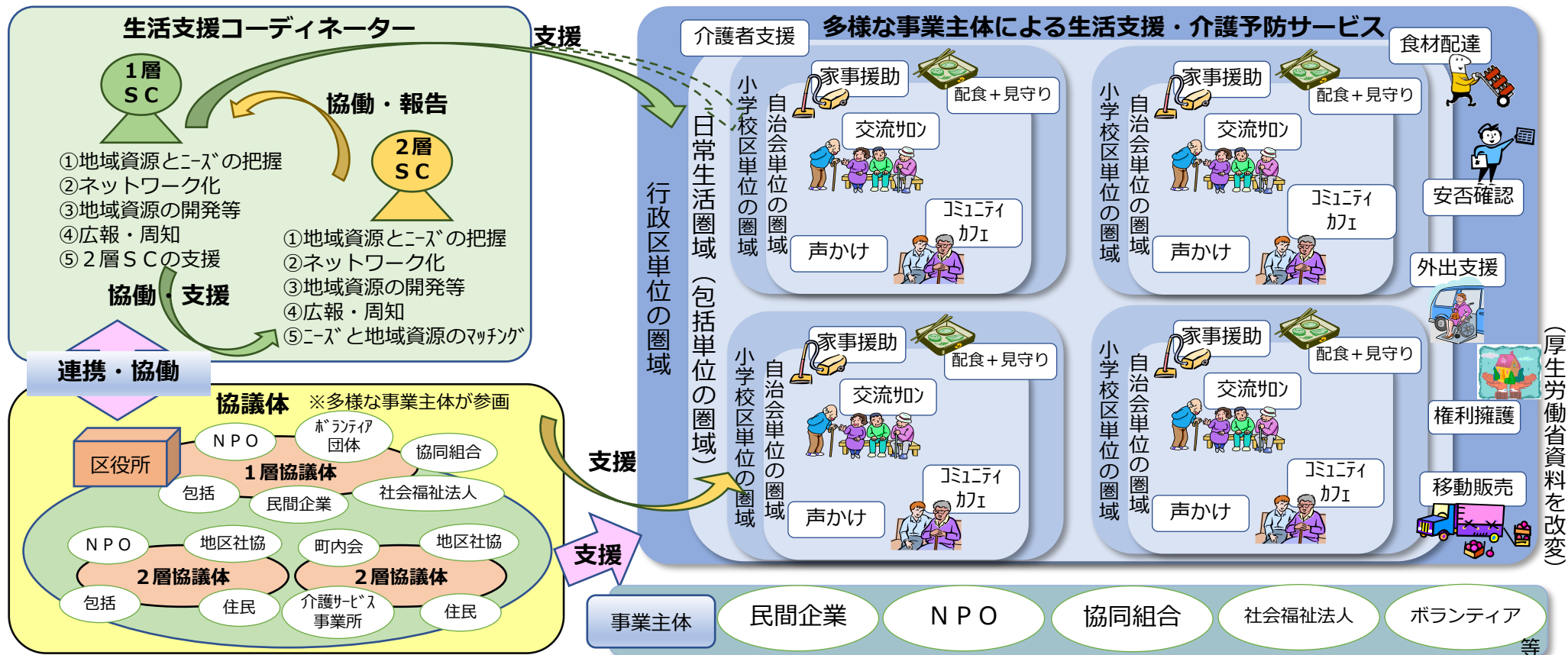
サービス充実に向けた支援等

（２）協議体等のネットワークの構築

多様な主体が参画し、顔の見えるネットワークづくり、相互の連携・協力関係の強化に向けた情報共有や問題解決を行うため、協議体及びワーキングを開催する。

2 第1・2層生活支援コーディネーターの役割分担

- 生活支援コーディネーターは、元気な高齢者はもちろん、支援や介護が必要になっても自分らしく地域の中で暮らし続けられ、社会参加ができる地域づくりを進めていくために、多様な事業主体による重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築を支援する。
- 第1層SCは**、元気な高齢者はもちろん、支援や介護が必要になっても自分らしく地域の中で暮らし続けられ、社会参加ができる地域づくりを進めていくために、**第2層SCを支援**するとともに、**第2層SCでは対応が難しいニーズへの対応や、広域での実施が効果的なもの**について対応を行う。
- 第2層SCは**、元気な高齢者はもちろん、支援や介護が必要になっても自分らしく地域の中で暮らし続けられ、社会参加ができる地域づくりを進めていくために、**担当する圏域において地域資源やニーズの把握、関係者のネットワーク化や地域資源の開発等**を行う。



3 令和4年度の状況

（１）地域資源・サービスの開発等の状況

・介護予防の取組み	新規・拡充	： 204件	(R3年度	159件)
	継続支援	： 211件	(R3年度	187件)
・生活支援サービス	新規・拡充	： 23件	(R3年度	23件)
	継続支援	： 19件	(R3年度	12件)

（２）担い手養成講座・ワークショップ等開催状況

・介護予防	講座数	：	295回	(R3年度	117回)
	参加者数	：	3,442人	(R3年度	3,113人)
・生活支援	講座数	：	33回	(R3年度	35回)
	参加者数	：	368人	(R3年度	477人)

(3) 協議体等開催状況

- ・協議体：第1層 61回（R3年度 57回）
第2層 133回（R3年度 92回）
計 194回（計 149回）
- ・ワーキング：第1層 154回（R3年度 206回）
第2層 234回（R3年度 184回）
計 388回（計 390回）

(4) 地域ケア会議への参画状況

・地域ケア会議： 第1層 211回（R3年度 215回）
第2層 348回（R3年度 296回）
計 559回（計 511回）

（５）研修等の状況

- ①生活支援体制整備連絡会（第1層）・・・4回
4/15(新任のみ),5/31,8/31,11/30開催
各区間の事例紹介や情報共有など
- ②事業推進検討ワーキング会議（幹事会）・・・3回
11/16,1/18,2/8開催
意見交換、連絡会の取組みや研修の企画など
- ③生活支援コーディネーター研修会（第1・2層）・・・2回
2/24,3/2開催
関西国際大学岩本先生による講義、事例学習、情報共有など
- ④動画視聴型研修・・・通年視聴可能
市社協と福祉局で合同作成
- ⑤近畿ブロック政令指定都市社協情報交換会・・・1回
- ⑥大阪府生活支援コーディネーター養成研修・・・1回

- ①～④は市社協主催
⑤神戸市社協主催（大阪・神戸・京都・堺の持ち回り）
⑥は大阪府主催

4 事業実績（令和2～4年度）

			2年度	3年度	4年度
地域資源の創出	介護予防	新規・拡充（件）	145	159	204
		継続支援（件）	-	187	211
	生活支援	新規・拡充（件）	26	23	23
		継続支援（件）	-	12	19
	計	新規・拡充（件）	171	182	227
		継続支援（件）	-	199	230
担い手養成講座 ・ワークショップ等	介護予防	講座数（件）	95	117	295
		実参加者数（人）	1,875	3,113	3,442
	生活支援	講座数（件）	16	35	33
		実参加者数（人）	335	477	368
	計	講座数（件）	111	152	328
		実参加者数（人）	2,210	3,590	3,810
協議体	第1層		48	57	61
	第2層		-	92	133
	計		48	149	194
ワーキング	第1層		262	206	154
	第2層		-	184	234
	計		262	390	388

※ R 3年度より、地域資源の創出における継続支援・第2層での協議体及びワーキングの設置を開始。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
北区	新規・拡充	・歌声喫茶の復活を希望する声があり、都島区で歌声サロンを実施しているシンガーソングライターが北区での活動を希望しているため、地域に紹介。 ・百歳体操には来ない人に健康意識を高めてもらうため、体操だけの通いの場を北ワハハ体操（北区在宅リハビリテーション連絡会の協力により開発）の立ち上げ支援。その後他の地域でも複数立ち上げ支援を行う。
	継続	・コロナ禍で休止中の百歳体操や配食サービスの継続支援。 ・食事サービス参加者が固定化しており、新たな参加者を呼び込みたいとのことで食事サービスの実施中に訪問し、状況を確認。地域内のマンションにチラシを配布したところ一定の効果があった。
都島区	新規・拡充	・独居の高齢者の増加やコロナ禍に伴い、区内で孤立死が増加しており、孤立する前に早期発見できる体制を作るため、「つながりいろいろ交流会」開催に向け、地域の銭湯や神社などへの呼びかけを行い、打合せを重ね、パワーポイントの作成などを行い活動の良さを引き出す支援を行った。 ・コロナ禍で高齢者の外出の機会が減少している「どンドン歩こうおでかけスタンプラリー」への支援。参加者へ他地域で実施しているクイズや塗り絵などの取組みの情報提供を行った。また他事業の開催時にチラシを配布するなど新しい参加者への周知を行った。
	継続	・閉じこもりがちな男性に外出の機会や交流の場を設け生きがいがいづくりに繋げる「男のための座学」の運営委員会にて情報提供を行い、自主運営ができるように支援。 ・コロナ禍でマンションの住民同士で交流する機会が減少しているため、終活講座と交流会の実施に向けた情報提供を行う。
福島区	新規・拡充	・身近な場所での認知症予防の場を作りたいとの相談があり、「オレンジカフェ カフェうえすたん」の立ち上げ支援。相談者と認知症カフェの説明や話し合いを行い、オレンジパートナー等の紹介や、認知症サポーター養成講座開催の情報提供をおこなう。町会長会議等で地域への周知をおこなう。 ・歯科から高齢者の方に身近で口腔について学べる場を作りたいとの相談があり、老人福祉センターの1講座として位置付け、「お口の中の健康「オーラルフレイル」について」の講座等の開催支援
	継続	・コロナ禍で中止していた「おしゃべりサロン」の再開に向け、助成金申請手続き援助、感染防止対策助言等を実施。
此花区	新規・拡充	・地域のグラウンドで個人的にモルックをしている住民がおり、地域の活動の場となるよう支援。活動の周知および活動に訪問した参加者に活動の継続に向けて意見を募った。団地のグラウンドのため、団地住民以外は参加しづらい現状があるが、周知の協力をお願いしたいと要望を受けている。
	継続	・コロナ禍で中止していた「ふれあい喫茶」の再開に向け、活動者の意見聴取等の後方支援。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
中央区	新規・拡充	・世代間交流の場がないとの声があり、フレイル予防運動、地域住民同士の交流を図るためけん玉教室の立ち上げ支援。ボランティアで先生になる人のために講師を呼んで講座を開催。その後は教室の内容を講師と相談し継続実施。ちーむオレンジへの参加も促す。
	継続	・コロナ禍で休止していた百歳体操や喫茶等の再開に向け、ビッグポスターを作成するなど周知の支援を行った。
西区	新規・拡充	・コロナ禍で休止、廃止となった活動の代替となる新たな活動として、折り紙教室や写経を実施し、新たな地域活動として定着させた。 ・見守りコーディネーターや民間企業からの相談を受け、地域交流の場や認知症カフェなどの立ち上げを実施。 ・スマホ教室の新規立ち上げ及び、活動が停滞していた教室の再開の補助を実施。
	継続	・見守りコーディネーターから、「元気はつらつクラブ」で実施する講座の候補や依頼できる講師がいなか相談を受け、講師の情報提供を行う。 ・R3年度より活動を開始している「堀江男の野菜」(水やり等の野菜の世話)の参加が少ないことについて見守りコーディネーターから相談があり、参加者が日々の成長を楽しめるような声掛けの仕方やタイミングについて助言。その後、参加者が手入れに来る頻度が増えたと報告を受ける。
港区	新規・拡充	・百歳体操の参加者は女性が大半で男性が参加しづらい状況であることから、男性のみで男性が通いやすい百歳体操の場の立ち上げを実施。 ・大阪スポーツみどり財団から、ボッチャのチーム立ち上げについて相談を受け、地域で体験会を実施。港区社協を拠点としたサークルを立ち上げた。 ・スーパーが遠く、生鮮食品が買いづらいとの相談を受け、区内で野菜の移動販売をしている和歌山の農家を紹介し、会館で販売を開始。
	継続	・ボランティア活動希望者が、コロナ禍により活動依頼がなく活動を休止されているため、オンラインでデイサービスとつなぎ、活動の場を提供。 ・結成して20年以上の男性ボランティアグループの活動が停滞しており、定例会での議案の相談を受けため、定例会の内容の提案や、活動の場の創出をした。
大正区	新規・拡充	・地域の中でも認知度が高く、交流の場と男性の活動の場として機能していたがコロナ禍で休止していた「おやじカフェ」(登録ボランティアグループ)の再開に向けて、運営支援を実施。 ・三軒家東・泉尾東地域で実施している「もじもじサロン」(脳トレのプリントに取り組むことによる脳機能の低下予防を実施)の取組み、運営についてUR千島の生活支援アドバイザーへ情報提供し、実施場所を拡充。
	継続	・地域資源マップ「大正区高齢者向けお役立ち情報マップ」の活用のため、4地域5か所の百歳体操、4地域のいきいき教室（介護予防教室）に訪問し、参加者へ説明を交えて配布。 ・鶴町地域の買い物支援のため、移動販売の稼働に向けた地域役員との打ち合わせ、コーディネートや、周知活動を実施。地域内で定着してきている。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
天王寺区	新規・拡充	・定年後の男性の集える場として、「昭和男の体操サークル」の立ち上げを実施。 ・ZOOMを活用した高齢者の居場所づくりのため、「Zoomプロジェクト会議」、「Zoomの集い」を月1回ずつ実施できるよう支援。
	継続	・コロナ禍により、いきいき広場開催の判断が難しくなっているため、新たに体操に参加したい高齢者の調整やボッチャの補助、生活支援コーディネーター通信への活動の掲載などにより今後も継続して活動できるよう支援。
浪速区	新規・拡充	・高齢者や認知症の方（当事者）の居場所や生きがいづくりとして浪速区老人福祉センターの裏庭を有効活用して「いどりファームなにわ」を開催。 ・外出自粛高齢者の身体機能および認知機能の向上を目指し、昨年度に区全域で開催した「わになろなにわ健康塾」の地域単位での開催を推進。
	継続	・コロナ禍において、町会単位の小さな集いの場が必要であるという意見を受けて、御蔵跡町会の事務所を活用してミニサロンの開設。
西淀川区	新規・拡充	・フレイル予防・介護予防・セルフケア等に取り組むために専門職との交流の場として「に～よんサロン」を定期的で開催。 ・保健師と協働し、男性限定の百歳体操「Let's Go！トレ塾 百歳体操」の新規立ち上げを実施。
	継続	・認知症について、情報交換や不安・悩みを共有することで、当事者及び家族がリフレッシュできる場になることを目的として昨年度立ち上げた「さくらんぼの会」について、継続的に場の開催ができるよう、引き続き支援。 ・地域活動やボランティア活動の新たな活動の場及び担い手の発掘・養成のため、「ちょこっと♡助っ人ポイント制度」の周知や説明会を開催。
淀川区	新規・拡充	・男性の知的好奇心を満たす居場所づくりのため、史跡や文化拠点のある区内のポイントを元にコースを選定して、街歩き「よどブラ」を実施。 ・健康・介護についての相談を身近で受付、地域住民同士の交流の場となることを目的として、大阪府看護協会と協力し、「まちの保健室」を開催。
	継続	・百歳体操参加者が減少しているため、ミニヨガ・ミニレクチャーやタオル体操を実施し、参加者の底上げを図った。 ・ふれあい喫茶の参加者を増やすため、演奏会や要望の多い包丁研ぎのボランティアを紹介。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
東淀川区	新規・拡充	・竹細工を教える事の出来る方を講師に地域で認知症予防の取組みの立ち上げを実施。 ・府外で銭湯ナースとしての活動を行っている看護師による銭湯での健康相談を実施。
	継続	・コロナ禍により休止していたおやじカフェの再開支援。 ・高齢化率の高い分譲マンションの買い物課題の解決のため、コロナ禍以前に開催していた「オリーブマーケット」の開催を支援。
東成区	新規・拡充	・個人で好きな時に取り組むことができる認知症予防として、脳トレプリント配布について地域に情報提供。 ・男性が会館に来て、参加者同士の交流を図るため、「神路映画会」の立ち上げを支援。
	継続	・高齢者のスマホの使いかたが分からないといったニーズに応えるため、スマホ講座の開催を支援。 ・参加している高齢者の生きがいづくりのために、KKB「後期高齢者バンド」やオカリナ・ウクレレ教室が発表できる場を提案。
生野区	新規・拡充	・地域より「男性の居場所づくり」で参加してみたいことのアンケートで1位になった「歌声喫茶」の立ち上げ支援。 ・包括が開催したノルディックウォーキング講座に参加し、住民の反応やニーズを把握。仲間で集まってノルディックウォーキングを続けることの提案や前向きな声かけを実施。
	継続	・認知症を理解する地域づくりをすすめていくため、認知症当事者やその家族が抱えている悩みを気軽に相談できる場所である認知症カフェについて、「いくので憩う」や生活支援情報冊子による社会資源の周知などを実施。
旭区	新規・拡充	・地域ボランティアとボランティアグループ活動者と協力し、定期的な認知症予防の取組みとして新たに認知症教室「わすれな草」の立ち上げ支援。 ・既に地域で実施されている体操等の場で、新たな体操や脳トレ等のプログラムを取り入れたいというニーズが増えてきているため、旭区理学療法士会、旭区保健福祉センターと協働し、「もっと・あったか体操講座」を実施。
	継続	・百歳体操の効果を参加者が実感できるよう、体力測定および体操指導の実施に向け調整し、保健福祉センターと協働して体力測定会を実施。 ・ボランティア活動の担い手（世話役）不足や高齢化がみられるため、新たにボランティア活動を希望されていた方への状況を説明し、サークルとの顔合わせおよび活動見学の機会を設定するなどし、活動とのマッチングに向け支援。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
城東区	新規・拡充	・大人向けのプログラミング教室として、「ナレッジ・ラボ」の立ち上げを支援。 ・感染リスクの低い野外活動として、ノルディックウォーキングの実施（検討の場の設定、実施内容等に係る助言・情報提供、広報支援）
	継続	・感染状況が落ち着いたことにより再開した高齢者食事サービスにおいて、レクリエーションの担い手不足の課題があったため、ボランティアセンターとの連携などの支援を実施。 ・コロナ禍で既存活動が長期自粛していたため、コロナ禍でも楽しめるものとして、手芸等の創作プログラムの提供を実施。
鶴見区	拡充	・高齢者率の高い地域のため、前年度より包括、生活支援コーディネーター、地活協、地域福祉コーディネーターで、「男性の居場所」を榎本地域、今津地域で立ち上げた。 ・既存の園芸ボランティアグループが年度末で解散するため、『園芸ボランティア入門講座』を企画・募集・開催し、新たなボランティアグループの立ち上げを支援。
	継続	・誰もが参加できる『こども食堂』に興味・関心のある高齢者へ情報提供し、外出のきっかけや世代間交流を促進。 ・「鶴見区シニアボランティア アグリ」のメンバー募集チラシや情報紙『皆で一緒に！』や区社協のホームページなどで活動を周知。住民や大阪府広域調整室などの団体から問い合わせがあり、代表につないだ。
阿倍野区	新規・拡充	・百歳体操の参加者が固定化されているため、今までやっていない区民センター・区役所で開催。3か所に会場をもうけ、区全域のどの場所が参加しやすいかアンケート返答より分析。 ・気軽に地域のだれもが参加できる集いの場として、障がい者スポーツ振興会にボッチャの講師依頼、体験会を開催。
	継続	・コロナ禍により休止していたボランティアグループ活動を再開。参加者を募るチラシづくりや周知の協力を実施。 ・感染症の影響で延期となっていた百歳体操について、再開に向けて保健師・包括など関係機関との連絡調整を実施。
住之江区	新規・拡充	・手芸が得意だが閉じこもりがちな住民が友人と集える場をつくるため、本人宅への訪問や集いの場の提案、社協への作品の展示の提案を実施。 ・地域で脳トレを始めたいとの声を受け、管理栄養士や理学療法士と連携し講座を開催。講座終了後、集える場の立ち上げを実施。
	継続	・「コロナ禍で休止していた食サを復活させたい。」という声を受け、区内14地域の食事サービスで取引のあるお弁当業者の情報を収集し、一覧を作成・提供。 ・見守りあったかネットコーディネーターのチラシ作成技術の向上に向けた支援を実施。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
住吉区	新規・拡充	・ペットと高齢者の暮らしにおいて、生活困窮や認知症等により飼育不十分となり、生活環境が不衛生になる課題が制度の狭間となっている。トイレマットやペットフードの寄付を募り支援するネコ会議を開催（2月に1回）。飼い主が生活を立て直すこと、仕組みの検討を通して動物の専門職と福祉の専門職が協働する支援の仕組みを検討。2月22日にねこねこ食堂のイベントを実施。多くの寄付が集まった。 ・野菜販売やランチをオープンされるお店からランチ後の空きスペースを地域のニーズに合うかたちで活用して欲しいとの相談がある。男性の参加しやすい場が求められており、百歳体操の立ち上げ支援を行う。区の保健師と連絡調整、ポスターの作成支援等を行う。
	継続	・フレイル予防に繋がる活動を行う「大人のクラブ活動」で、楽しみの不足という意見を受け、「ハンドベル体験」等、楽しみながらできるプログラムを提供。 ・各地域でコロナ禍で配食になっていた食事サービスが会食に変更できたが、黙食となっているため、食後のレクリエーション内容の支援を行った。
東住吉区	拡充	・北田辺公園の花壇の手入れや草むしり等をおこなう人がおらず、手入れがおこなわれていなかったが、北田辺公園でラジオ体操が開始され、公園が地域活動に活用されるようになった。ラジオ体操の後に花壇の手入れをボランティアで行いたいとの相談を受け、ふれあい花壇の開始の流れや必要な手続き等の支援をおこなう。また、長居公園事務所と連絡調整を行った。 ・園芸をしたいとのニーズを把握していたが、園芸ができる場がなかったが、ふれあい共生会から地域貢献に取組みたいとの相談があり、園芸ボランティア養成講座を企画。受講者のうち数名がふれあい共生会職員と園芸ボランティアとして活動している。
	継続	・コロナ禍で休止していた麻雀を通じての交流の場の再開支援。コロナの感染予防対策等の相談を受けたため、他地域の状況について情報提供。再開後定期的に状況確認を行っている。
平野区	新規・拡充	・2層協議体（4月）にて他地域の取組みを把握したことをきっかけに、平野南地域でも地域住民が持っている特技・趣味を生かし、披露する場を立ち上げたいという相談があり、平野南にぎやか講座の立ち上げ支援。広報や助成金支援を行った。 ・マンションの副理事よりマンションの現状について危惧していると相談があり、居場所づくりをきっかけとし顔の見える関係をつくりたいとの思いをうけ、マンション集会所での居場所「優しい時間」の立ち上げを支援。介護予防につながる健康づくりや、ふれあい交流を目的とした活動や災害時の助け合い活動の基盤とする。
	継続	・男性の居場所づくりグループとして区社協が支援しながらを継続してきた「The男組」の自主運営化に向けて地域集会所やコミュニティスペースなどの情報提供を行い、作業所との交流や庭での畑づくり支援。男の居場所づくり講座で講師として活動紹介を依頼し実施した。 ・放課後学習支援の場所を探していた社団法人に無料のコミュニティスペースを紹介。「The男組」の定例会に参加して放課後学習支援の活動を伝えたところ、「The男組」の近隣のメンバーが参加。

参考：各区別活動状況

区名	主な内容	
西成区	新規 ・ 拡充	・園芸に興味のある高齢者は居るが、活動できる場所が少ないため、スーパーの駐輪場内の花壇を活用し、高齢者がボランティアで園芸活動ができる機会を設ける。花壇を活用できるように環境や物品の整備、活動に向けての個人ボランティアの話し合いに参画し生活支援コーディネーター通信にて活動者募集の周知をおこなった。
	継続	・百歳体操以外に集まってできる介護予防の活動としてボッチャの取り組みをおこなう。活動のPRとして横断幕を作成し、動画を撮影して町会長会議で周知した。

生活支援体制整備事業の展開①

高齢者の通いの場の充実について

人との交流が週1回未満となることが健康（認知症、要介護、死亡）リスクになるという医学的エビデンスに基づき、全国で住民主体の通いの場づくりを推進している。

【介護予防に資する住民主体の通いの場の状況】

体操や趣味活動等を行い、住民主体で月1回以上活動し、介護予防に資すると市町村が認めるもの

○ 全国等との比較

R3年度	高齢者人口（人） （A）	通いの場の箇所数 （箇所）	参加者実人数（人） （B）	参加率（B/A）
大阪市	684,998	4,048	87,784	12.8%
政令指定都市平均	356,346	1,206	21,472	6.0%
大阪府	2,383,870	7,831	151,354	6.4%
全国	35,929,389	123,890	1,973,552	5.5%

○本市・全国男女別参加状況

	大 阪 市			全 国		
	全体(人)	男性(人)	女性(人)	全体(人)	男性(人)	女性(人)
参加者	35,928	6,116	29,812	591,332	122,091	469,241
構成比	100.0%	17.0%	83.0%	100.0%	20.6%	79.4%

生活支援体制整備事業の展開②

男性が参加しやすい活動の場の立ち上げ

通いの場では、女性が中心の場が多く、男性が参加しにくかった

男性の孤独防止に向け、参加しやすい活動の場づくりの取組みが増加

(取組例)

- ・男前百歳体操（西成区）
- ・男の足湯 のぞみ屋（西成区）
- ・こうせい親子`（おやじ）食堂（港区）
- ・メンズ・アソシエーション（此花区）
- ・男の寄合い場（港区）
- ・鶴見区シニアボランティア アグリ

【新規立ち上げ数】

R2 R3 R4（年度）
7件 ⇒ 14件 ⇒ 18件



アグリ



男の足湯 のぞみ屋



こうせい親子` 食堂

生活支援体制整備事業の展開③

生活支援サービスの立ち上げ

事業開始当初は、いきいき百歳体操など、介護予防に資する通いの場づくりが中心

地域の実情、ニーズに対応した生活支援サービスの立ち上げが増加

(取組例)

【移動販売】

- ・鶴見区移動販売サービス
- ・弁天マルシェほか2地域（港区）

【助け合い活動】

- ・桃陽助け愛隊（天王寺区）
- ・The男組（平野区）

【移動支援】

- ・生野区異地域

令和5年4月スタート

《桃陽助け愛隊》

～孫の手ほどのお手伝い持ちつ持たれつ助け合い～

ちょっと困ってるおん！
ちょっと手伝ってほしいな！
ちょっと買い物行ってほしいな！

そんな時は桃陽助け愛隊にご相談ください！(無料) 桃陽地域の方に限ります

※特に技術資格を必要としない日常生活のお手伝いです
(例えば)
・お部屋の簡単な掃除・整理整頓
・台所・食器等の片づけ
・家具や重いものの移動
・季節の衣類・布団の入れ替え
・買い物(メモ程度で買い物に行けるもの)
・電球の交換
・お薬(処方箋)受け取り※特に説明を聞かなくても良い場合

※月曜～金曜日(土・日祝休)
9時から17時
1回のお手伝いの目安は30分～60分とします
※まずは受付担当者に
お電話・ご相談下さい

受付担当者事前訪問
確認後、日程調整させて
いただきます

※お手伝いのボランティア募集しています

桃陽助け愛隊

桃陽地区社会福祉協議会



令和4年度 生活支援体制整備事業

高齢者の元気応援！情報紙

皆で一緒に！

第21号

※お住まいの地域でいつでも誰でも簡単に利用できるように、高齢者の生活に関する「介護予防や生活支援」についての情報をお届けしています。

東田北地域 移動販売 スタート！！

毎週金曜日
午後3：45頃～20分程度

おおよさかパルコの移動販売車が
市営東田大宮西住宅 東側に来ます♪
どなたでもご利用いただけます。
(★駐車場：東田大宮1-10) この辺り

市営東田大宮西住宅
1号館

鶴見区 生活のしおり

クアマネさんから教えてもらった
高齢者の暮らしに役立つ生活支援情報、ウェブ
で掲載中。(裏面にも一部紹介しています)

※お住まいの地域でいつでも誰でも簡単に利用できるように、高齢者の生活に関する「介護予防や生活支援」についての情報をお届けしています。

※お住まいの地域でいつでも誰でも簡単に利用できるように、高齢者の生活に関する「介護予防や生活支援」についての情報をお届けしています。

生活支援体制整備事業の展開④

59

大阪府
大阪市

大阪市鶴見区社会福祉協議会

『大阪市鶴見区シニアボランティア アグリ』 ♪チャレンジ続くーよーどーこまーでーもー♪

『鶴見区シニアボランティア アグリ』の活動の場は、畑だけに留まらず。ある時は会議室、ある時はこども食堂、ある時は公園、ある時はWEB上です。各メンバーはライフスタイル（趣味、学習、仕事、有償ボランティア活動、家族介護）に合わせて社会参加し、助け合い生きがいをもって何事にもチャレンジされておられます。

D 助け合い活動の創出に関するもの

つながり・見守り



34

大阪府
大阪市

大阪市平野区社会福祉協議会

平野区ささえ愛支援員のあゆみ

平野区の生活支援コーディネーターは「平野区ささえ愛支援員」という独自の愛称で活動しています。第1層・第2層あわせて6名で平野区民のつながりの架け橋となるよう、区内のささえ愛をひろげる役割をしています。

B 体制整備に関するもの

協議体の活躍



公益財団法人さわやか福祉財団主催の『いきがい・助け合いサミット in 東京』において、鶴見区と平野区のポスターを展示。

生活支援体制整備事業の展開⑤

みんなで考えつく、あたらしいまち。
西成区社会福祉協議会——生活支援体制整備事業

タオルを持って「男の足湯のぞみ屋」にいらっや〜!!

天下茶屋地域では、他地域から転入してきた男性の単身高齢者が多く、認知症などの影響により道に迷う方が増えてきたことから、南部地域包括支援センターや天下茶屋ランチ、地域関係者、介護事業所、区役所、区社協などが協力してマップをつくることにしました。

協力して、マップをつくろう!!

マップづくりでできたネットワークを活かし、地域に出かける場所の少ない「男性向けの居場所づくり」をする予定でした。

しかし! コロナ禍により見合わせとなってしまいました…。

地域の「ふれあい喫茶」や「百歳体操」などの場も休止が続くなかで、天下茶屋ランチと母体の社会福祉法人が、【屋外で使える】場所を活用して「集いの場」をつくることを考えられ、みんなで頑張ることに!

できること協力しますよ!

うちの施設の中庭を活用できないかな

そして、9月より「男の足湯のぞみ屋」がオープンしました!

気持ちええわ〜!

ちょっとしたアイデアと工夫次第でこんな素敵な「場」が生まれました!

男の足湯「のぞみ屋」
【開催日】第1・3・5火曜日 午後1時〜2時30分
【開催場所】天下茶屋地域在宅サービスステーションのぞみ
☎06-6655-3030(他線まで) (天下茶屋第2-15-12)

このアイデア、おもしろいわ、サイコーや〜!
閉じこもりがちな男性高齢者にどうすれば地域の場へ足を運んでもらえるか…知恵を絞って工夫して、男性が参加しやすい「集いの場」が生まれました!

ランチの思い・メッセージ 包括の思い・メッセージ 地域の思い・メッセージ

自 然に囲まれた小さな庭で男の足湯・少しのあったまりで心がかたまりやすくなる。見たことのない「おっちゃん」に会えるかも…しゃべらなくても大丈夫。と言う気持ちで参加しました。買物帰りにお立ち寄りくださいな。
春は桜が絶景です☆
天下茶屋地域在宅サービスステーションのぞみ
施設長 永田 千佳さん

天 下茶屋地域の男性を対象に、孤独死を防ぐこと、ひきこもりの方を地域の集いの場へ誘い出すことにより、介護予防の観点から地域住民と協働で、男性高齢者の集いの場、活動の場を作りたいと考えました。足湯を通して、地域の繋がりがほころぶような場が提供できたらいいなと思っています。
天下茶屋ランチ
相談員 梅森 洋希さん

コ ンタクトでもできる活動として、屋外で感染を防ぎながらつながることができる場所として、のぞみ屋さんの定期的な活動を紹介させていただきました。男性が参加しやすい場としての活動にもなっています。
再び感染が広がってきている昨今、思うように活動や参加ができない状況が続いていますが、足湯や口の動きを保ちながら、電話やメール、SNSなども活用してつながれる方法でつながり、また集まれる状態になれば様々な集いの場に参加していただきたいと思います。
感染を防ぎながら男性が集える場を必要とする方につながります

各専門職や地域関係者の思いをつなぎます
生活支援コーディネーターは地域の思いの「つなぎ役」

定期的な活動を分かりやすく皆さんに伝えます
活動したい思いと参加したい思いをつなぎます

生活支援コーディネーター

生活支援体制整備事業
社会福祉法人 大阪市西成区社会福祉協議会
西成区岸里1-5-20 西成区役所合庁舎8階
TEL.06-6656-0080 FAX.06-6656-0668
担当：生活支援コーディネーター 杉本

地域にお住まいの方の思いをつなげ、地域で話し合いをして、地域活動の場の創出を支援します。